

役員だより 2021年4月号

世界はおいしいモノであふれている

つい最近まで、NHKの人気番組の一つに“世界はほしいモノであふれている”というのがありました。MCを務めていた三浦春馬が急逝し、3月19日をもって終了したのが残念ですが、世界の珍しいモノ、知らないものなど、驚くようなものばかり、いずれも手の届かないようなものばかりでしたが、夢を与えてくれる番組でした。最近、健康状態もあって、遅くまでTVを見る機会が減って来ましたが、5月の再放送は見ようと思っています。

さて、2月号にも書きましたが、油断と過信のせいで、塩分制限、糖質制限を強いられる病気に陥るに及んで、食べるものに細心の注意を払うようになりました。家内に連れられてスーパーマーケットに行くたびに、“世界はおいしいモノにあふれている”とツクツク思うのです。別に高価で豪華なものではなく、病気になる前には当たり前と思っていたものが全部贅沢なものに見えるのです。

振り返ってみますと、幼少期の終戦直後の昭和の時代は、食材は乏しかったというおぼろげな記憶がありますが、パン食が好きだった筆者は、“アンパン、ジャムパン、クリームパン”が食の“三種の神器”みたいなもので、これらの一つでもが食卓の上にあると、ワクワクしたものです。

ところが、最近になって住んでいるところの近くのスーパーに行って気が付いたのは、パン食のコーナーに三つがきちんと揃っているのを見たことがないのです。もちろん、パン食専門店に行けば、きちんと揃っているのですが、スーパーでは、こんな古くからあるものよりは、もっと見栄えが良くて気の利いたおいしいものが沢山あるので、多くの顧客には、これらはあまり美味しいものに入らない、ということかもしれません。

一方、これもごく最近ですが、ネットでの情報によりますと、食パンが大人気で、東京では行列ができる店もあり、菓子パンは逆風だとか。ただ、筆者は日本の食パンは、欧米のそれに比べて甘みが強くてあまり好きではありません。食事制限を言い渡されてからは、もっぱら、減塩パンを食べていますが、むしろこの方がいろいろな食材にあう、という気がしています。ただ、無塩パンとか減塩パンとかを扱っているスーパーは少なく、パン専門店でも曜日や時間が限られていて購入するのに不便です。そのうえ、購入される方も限られることもあって割高で入手するのに苦労していましたので、近くのあるスーパーの担当の方に相談したところ、毎日入荷するように手配してくれました。これは大変ありがたいことです。

制約がある中であるほど、あるいは、制約があるからこそ、“世界はおいしいモノにあふれている”という実感が一層してくるのですが、食材を手配してくれる人、食材を食する人の事情に合わせて作ってくれる人がいて、筆者の今の生活が成り立っています。ですから、ただ、ひたすら感謝の毎日なのです。若い方が聞いたら、滑稽に思われるかもしれませんが、早く、あまり気にせずに、“アンパン、ジャムパン、クリームパン”を食したいものです。

コロナ禍と いえども昭和に 較べれば

あふれる奢り 令和の時代

(4月11日、代表理事 安原一哉)